

令和5年度（2023年度）第1回政策会議

日時：令和5年（2023）年5月29日（月）14:40～15:10

会場：市長会議室

参集者：大泉市長，田畑副市長，佐藤副市長，手塚企業局長，藤井教育長，
阿部企画部長，池田総務部長，島田財務部長

付議事項

市道東雲広路および臨港道路東雲広路整備基本計画（原案）について

対応者

佐賀井都市建設部長，山内都市建設部次長，小畑都市建設部都市計画課長，
氣田経済部長，山本土木部長，木村港湾空港部長，高井観光部次長

◆議題の趣旨◆

市道東雲広路および臨港道路東雲広路整備基本計画（原案）の今後の進め方について協議しました。

◆協議の結果◆

計画については現時点で成案化を見送ることです承されました。

◆主な発言◆

■佐賀井都市建設部長

都市建設部では平成30年に「函館市立地適正化計画」を策定し、一定のエリアに生活利便施設や居住を誘導するコンパクトなまちづくりへの取り組みを進めており、令和4年度からは、国の補助事業である「都市構造再編集中支援事業」を活用し、函館駅前・大門地区を対象に居住誘導を図るために必要な施策を進めている。

東雲広路の整備は、その施策の一環として実施するもので、居住誘導を進める上で必要な「賑わいある魅力的なまち」を創出するため、また、ガーデンシティ函館の実現を目指し、回遊性と滞在環境に優れた函館を代表するシンボリックの広場空間を創ることを目的としており、昨年度、基本計画の原案を策定したところであるが、課題などもあることから、今後の進め方についてご協議いただきたい。

都市構造再編集中支援事業の概要、また、市道東雲広路および臨港道路東雲広路整備基本計画原案の概要について、担当課長の方から説明させていただく。

■小畑都市建設部都市計画課長

都市構造再編集中支援事業の概要について説明する。

この事業については、平成30年に策定した「函館市立地適正化計画」に基づくコンパクトなまちづくりを進めるため、当市の中心部である函館駅前、大門地区を対象に市街地再開発事業と連携し、街なかへの居住誘導と魅力ある居住環境の整備を一体的かつ5年間で集中的に行っていくもので、事業の内容を都市再生整備計画としてとりまとめ、公表している。この事業に係る国の補助率は、対象事業費の50%である。

各事業の概要について説明する。都市構造再編集中支援事業の基幹事業については、棒二森屋跡地に計画中の再開発ビル内に整備を予定している、地域交流センターの公共施設整備、東雲広路の広場空間整備、市道公園通2号、通称「高砂通り」の歩道拡幅整備となっている。

また、同時に実施するソフト施策である提案事業については、都市再生整備区域内で自ら居住するために、住宅とその敷地を取得するための費用として最大200万円を補助する制度、回遊性の向上や賑わいの創出を図るための社会実験として、歩道でのオープンカフェの実施や元棒二森屋の仮囲いを活用した一般公募によるアート作品の展示の実施、社会実験にご協力いただける店舗に対して、オープンカフェ用の日除けやテイクアウト窓口の設置などの改修費用に最大50万円を補助する事業となっている。以上が都市構造再編集中支援事業の概要である。

次に、市道東雲広路および臨港道路東雲広路整備基本計画（原案）の内容について説明する。

整備目的については、東雲広路を回遊性と滞在環境に優れた、函館を代表するシンボリックな広場空間として整備するものである。

整備の基本方針については、市庁舎を背景とした新たなシンボル空間をつくる。全体の景観の中に、ブロック毎に明確な機能や特徴を持たせ、歩いて飽きない広場とする。市内の大きなイベントと連動して広場全体を使ってイベントが開催できる場とする。函館を訪れる人が立ち寄りた、思い出を残せる場所になるための空間づくりと演出を行う。最後に、水や花、緑と触れ合える居心地の良い空間づくりと街なかグリーンインフラ形成を目指すとしている。

管理運営については、函館市役所から開港通りまでの市道区間の所管は土木部、開港通りからともえ大橋側は港湾空港部所管の臨港道路区間となっているが、最終的にこの広場空間については都市建設部で所管し、様々な利用を想定している。

整備内容と利用イメージについて、市役所から電車通りまでのAブロックについては、緑の中に子どもや高齢者をはじめ様々な人の居場所がある場所として、市民にとって毎日使えるような緑地という事を想定している。

芝生広場を中心として、中央に遊びの山として、高さ2メートルの小山を作って、冬はそり遊びができるように考えている。その左側にも、子供の遊び場として、幼児用の遊具を置くことを考えている。また、木の箱という、内部に遊び要

素のある木製建築物を整備して、季節天候に左右されず遊べる場とし、中にはトイレと倉庫の配置も考えている。また、水の遊び場として噴水など、子どもが水遊びできるような空間とする計画としている。

次に開港通りまでの中央部分のBブロックについては、交流と催しのゾーンという、東雲広路の中心として利用度が高い広場という想定をしている。ガラスの建築物を置いて、屋内と屋外で市民も来訪者も自由にくつろぎ、飲食ができる広場。市民がミニイベントを開催できたり、大きなイベントも開かれる広場という事を想定している。中心部は、イベントの貸出し広場として、普段はベンチなどを仮置きして、日常的に市民がくつろげる空間。イベント時は、それを撤去して小イベントができるというスペースを考えている。

ガラスの箱と称している建築物については、情報発信の場のほか、飲食のできるスペースやトイレ、倉庫、事務所を配置し、夜には、行灯のような形となる計画としている。

次に開港通りからともえ大橋までのCブロックについては、彩りと催しのゾーンとし、観光客の利用が多いゾーンとして、写真撮影や待ち合わせ、集合、休憩ができる広場を想定している。

海への視界を確保しつつ、印象に残る水と花の景観がある場として、大きなイベントや企業などの企画イベント開催に対応できるよう想定している。中央に、ステップガーデンという特徴的な階段状のウッドデッキを設置し、花と噴水を配置する計画としている。

以上が概要である。

■佐賀井都市建設部長

次に、現状と課題であるが、現状として、東雲広路の整備については、令和4年7月に公募型プロポーザルにより事業者を選定し、本年2月には特別職協議を行い、3月に市道東雲広路および臨港道路東雲広路整備基本計画の原案を策定したところである。そして、この原案を元に本年4月3日から5月2日まで、パブリックコメントを実施し、5名の方からご意見をいただいた。また、商工会議所などの関係団体への意見聴取も併せて行っている状況である。原案の策定にあたって、これまで懇話会、有識者、近隣事業者、パブリックコメントなどによりいただいた意見の内容については、概ね本事業への肯定的な意見、または期待する意見であった。

一方で、グリーンプラザより東雲広路の整備を先行することをどう解釈すればよいのかというような意見や、現在、計画が中断しているグリーンプラザと同時進行させることにより、東雲広路、グリーンプラザ、開港通り、こういった回遊型の散策コースが完成するのではないかという意見、東雲広路を計画どおりの集客を意識した整備を行うことで、結果的に函館駅前・大門地区をより分断してしまうのではないかという意見。また、函館駅前・大門地区全体の景観をどのように考えているのかといったような内容。また、集客施設はグリーンプラザに設置

し、空間の連続性を保つ方が、函館駅前・大門地区の発展に繋がると考えるといった意見があった。

また、商工会議所の中心市街地活性化委員会において、函館駅前・大門地区全体のまちづくりの方向性を考えた上で進めるべきではないかという意見があった。

課題についてであるが、都市構造再編集中支援事業との重要な連携事業である市街地再開発事業が当初予定していたスケジュールよりも遅れており、現時点で工事着手等の時期が未定な状況となっている。

これからの対応についてであるが、今後の進め方としては、このような市民、事業者からの意見などを踏まえ、現在進めている「都市構造再編集中支援事業」において、基幹事業である東雲広路の整備は当該事業を継続する上で重要な要素であるが、当該整備の基本計画の成案化にあたっては、再開発事業の進捗を見据えながら、再開発ビル内に設置する公共施設、グリーンプラザのあり方などとの調整を含め、函館駅前・大門地区の今後のまちづくりの方向性を関係部局や関係団体と協議・調整し、検討するなかで決定していきたいと考えており、現時点での成案化は見送ることとしたい。

しかしながら10月に当該事業に係る国との来年度予算の協議があることから、それまでには一定の方向性を決定し、お諮りしたいと考えている。

説明は以上である。

■田畑副市長

今、函館の地域経済が非常に疲弊している中で、市役所の前の通りを整備することに、市民の理解が得られるかと疑問に思っている。現在の形状で道路機能としては満足していることから、都市建設部の説明どおり、見送るとというのが賢明な判断ではないかと思う。

札幌の大通公園は、北側が官庁街、そして南側が住宅や商業施設という形で上手く機能しており、非常に人の行き来もある。それに対し、東雲広路周辺では、中心市街地の活性化や西部地区の再開発といった施策がまだまだこれからであり、これら事業の進捗状況を見ながら判断しても良いのではないかと。

■大泉市長

副市長の意見ももっともだと思う。作成されたデザインが非常に魅力的なものだと感じる一方で、市役所の前がきれいになり、これが、街全体と上手く連動して、居住誘導ができると誰もが思えるのなら別だが、ただ市役所の前をきれいにするために多額の費用をかけるように見える。時間はあまり残されていないが、一旦見送り、仕切り直したい。

■阿部企画部長

他に意見がないようなので、本計画については現時点で成案化を見送るということで了承とさせていただく。